

令和8年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標「夢や希望を持ち、主体的に、たくましく、しなやかに生きる生徒の育成～明るく、わ(和・輪)のある学校～」

目指す子どもの姿 (1)何事にも主体的に粘り強く取り組み、挑戦する生徒、(2)自分で考え、正しく判断し行動する生徒、(3)自分を磨き、自分の良さを発揮しようとする生徒、(4)自他の生命を尊重し、思いやりの心を持つ生徒、(5)自分や学校、ふるさとを大切にできる生徒

変容を目指す資質・能力 a 知識及び技能 b 思考力、判断力、表現力等 c学びに向かう力、人間性等 d 情報活用能力 e 課題解決能力 f 学び続ける姿勢 g コミュニケーション能力

三田市立けやき台中学校
学校長 大江 潤 敬

研究主体【研究推進委員会(管理職、研究推進担当、情報教育(ICT)担当)、兵庫型学習システム担当、国語科、数学科、英語科、特別活動担当で構成】

前年度			継続性	4月(※全国学力・学習状況調査の結果などを受けて年度途中で変更する場合は削除、追記部分を朱で修正)			2～3月 年度末評価		
学力向上に向けた重点的な目標	年度末評価 (前年度の成果と次年度に向けた課題等)	評価		学力向上に向けた重点的な目標 (変容を目指す資質・能力)	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	教員 評価	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価
1. 授業改善 ・個別最適な学びと協働的な学びの充実	(学校評価アンケート 生徒) ○「⑦わかりやすく、学力が身につけられるような授業を行っている。」では、肯定的回答が93%(目標93% 昨年90%)であった。 ○「⑫授業の工夫や放課後の学力補充など、生徒の学力向上に取り組んでいる。」では、肯定的回答が92%(目標92% 昨年89%)であった。 ○⑧意見を発表したり、計画的に学習する指導を行っている。」では、肯定的回答が76%(目標76% 昨年73%)であった。 (全国学力・学習状況調査 生徒質問紙) ○「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。」では、肯定的回答が88%(目標88% 昨年85%)であった。 ◆「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」では、肯定的回答が62%(目標67%、昨年64%)であった。 ◆「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」では、肯定的回答が77%(目標86% 昨年80%)であり昨年と同程度であった。 ◆「国語の勉強は好きですか」では、肯定的回答が44%(目標68% 昨年65%)であり、昨年度より下回った。 ◆「数学の勉強は好きですか」では、肯定的回答が54%(目標72% 68%)であり、昨年度より下回った。	B	1. 学びを人生に生かす態度の涵養 ・学びを調整する力 ・自己理解/キャリア形成 ・地域社会との関わり(c,e,f,g)	(全国学力・学習状況調査 生徒質問紙) ○「将来の夢や目標を持っていますか。」では、肯定的回答が70%(昨年69%)。 ○「自分には、よいところがあると思いますか。」では、肯定的回答が90%(昨年89%)。 ○「人が困っているときは、進んで助けていますか。」では、肯定的回答が96%(昨年94%)。 ○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」では、肯定的回答が99%(昨年99%)。 ○「学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。」では、1時間以上と回答した生徒が平日で75%(昨年67%)、休日で75%(昨年66%)。 ○「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか。」では、肯定的回答が80%(昨年71%)。 ○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」では、肯定的回答が90%(昨年88%)。	○各教科で計画的に家庭学習の課題を提示し、基礎学力の定着と家庭学習の習慣化を図る。 ○定期考査ごとにテスト計画表を作成し、生徒が目標に沿った学習計画を立て、実行し、振り返りを行い、行動を調整・改善できるよう指導する。 ○「服のチカラプロジェクト」や地域貢献活動を継続し、学習と社会のつながりを実感させる ○定期考査前のノー部活デーやに長期休業中に学習相談を実施し、それぞれの生徒が自分のペースで学べるよう支援する。 ○校区学校園所連絡会において、家庭学習の現状を交流し、改善点を探る。 ○キャリアパスポートの取り組みを通じて振り返り、学期ごとに目標を明確化して自己の成長を自覚できるよう支援する。 ○学活・総合等の取り組みを通じて、自己のキャリア(進路)について考えを深めることができるよう指導する。 ○生徒が地域の行事に参加しやすいように、アナウンス、啓発や学校行事の調整などの環境整備を行う。 ○生徒会活動を軸に、他校や地域との交流を推進する。				
2. 学びを人生に生かす態度の涵養 ・学びを調整する力 ・自己理解/キャリア形成 ・地域社会との関わり	(全国学力・学習状況調査 生徒質問紙) ○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」では、肯定的回答が88%(目標92% 昨年89%)であり、昨年度から5%程度上回った。生徒は地域の行事に参加したり、「服のチカラプロジェクト」を通じて地域との連携や交流を深めた。 ○「将来の夢や目標を持っていますか。」では、肯定的回答が69%(目標68% 昨年65%)であり、昨年度から5%程度上回った。 ○「自分には、よいところがあると思いますか。」では、肯定的回答が89%(目標92% 昨年89%)であり、昨年度と同程度であった。 ○「人が困っているときは、進んで助けていますか。」では、肯定的回答が94%(目標96 % 昨年96%)であり、昨年度と同程度であった。 ○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」では、肯定的回答が99%(目標97 % 昨年97%)であり昨年度と同程度であった。 ○有志で集まった生徒が、市民センターの活書きのある机を磨き、色を塗る地域貢献活動を行った。 ○地域のクリーンデーに参加した。 ◆「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか。」では、肯定的回答が71%(目標82% 昨年79%)であり、昨年より下回った。 ◆「学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。」では、1時間以上と回答した生徒が平日で67%、休日で66%であり、計画的に家庭学習に取り組んでいるが、昨年度よりは下回った。	A	2. 深い学びを実現し、わかりやすく伝える力を育成する(授業改善) ・個別最適な学びと協働的な学びの充実(a,b,c,d)	(学校評価アンケート 生徒) ○「⑦授業はわかりやすい。」では、肯定的回答が95%(昨年93%)。 ○「⑫学校は授業の工夫や放課後の学力補充など、生徒の学力向上に取り組んでいる。」では、肯定的回答が93%(昨年92%)。 ○「⑧意見を発表したり、計画的に学習している。」では、肯定的回答が78%(昨年76%)。 (全国学力・学習状況調査 生徒質問紙) ○「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」では、肯定的回答が65%(昨年62%) ○「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。」では、肯定的回答が89%(昨年88%) ○「国語の勉強は好きですか」では、肯定的回答が60%(昨年44%)。 ○「数学の勉強は好きですか」では、肯定的回答が60%(昨年54%)。 ○「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」では、肯定的回答が80%(昨年77%)。	○研究テーマ「深い学びの実現～授業デザインを工夫し、わかりやすく伝える力を育成する～」に向けて「主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善」を実施する。具体的には個に応じた「探究的な問い」を設定し、ペア・グループ活動を通して協働的な学びを促す。 ○「わかりやすく伝える力」の育成に向け、発表、説明、プレゼンテーション、討論など、自分の考えを根拠を持って伝える場を計画的に設定する。また、生徒が互いに意見を交流し、考えを広げたり深めたりできるよう、ICT機器(スライド・動画等)を活用して協働的・探究的な学習を積極的に取り入れた授業を行う。 ○授業デザインの工夫と教材研究の充実に向け、単元全体を見通した授業構成(導入・展開・まとめ)や、各授業における「めあて・振り返り」(課題・まとめ)の場の設定を実施し、指導と評価の一体化させ「何を学び、何ができるようになるか」を明確にする。 ○校内研修及び、研究授業、「授業参観weeks」等の授業改善に向けた取り組みを実施したり、各授業における好事例を研修通信等で周知したりして、学校全体で研究テーマに向かう風土を醸成する。 ○ルーブリックや自己評価シートを活用し、「伝える力」の成長を見取り、PDCAサイクルを回して継続的に改善を図る。				
3. 小中連携の充実	○校区小学校と「学習指導」、「生徒指導」、「生活・学習環境」、「特別支援教育」、「保健指導」等の5つの柱を軸に連携を進めている。 ○校区の小学校の授業研究発表会に参加し、小学校の学習指導の工夫を共有した。小中連携の会では、小学校の取り組み、中学校の取り組みを共有した。 ○全国学力・学習状況調査の合同分析を行い、小中での一貫した学習指導の実現を念頭に、校区の児童生徒の強みや課題を共有し授業改善を行った。 ○校区小学校で、中学生が自分たちの学校生活や授業を紹介する出前授業を実施した。 ○入学説明会を実施し、学校説明を行った。	B	3. 小中連携の充実(c,f,g)	○義務教育9年間を見通した、系統的な指導による「中1ギャップ」の解消と基礎学力の定着を図る。 ○小中合同での全国学力調査分析に基づき、共通の重点目標(例:説明力の育成)を設定し、指導の改善を図る。	○全国学力・学習状況調査の合同分析を行う。 ○「学習指導」「生徒指導」など5つの柱を軸とした校区小学校との情報共有と、相互の授業研究会への参加を継続する。 ○中学生による小学校への出前授業や入学説明会を通じて、児童の不安解消と中学生の自己有用感向上を図る。 ○小中で共通の学習ルールやICT活用のルールを整備し、円滑な接続を支援する。 ○校区小学校の研究発表会に参加したり、中学校の研究授業や研修に校区小学校の先生を招くなど、授業交流を進める。				
4. 読書活動の充実	〈学校評価アンケート〉 ○生徒アンケートにおいて、「読書をする指導や活動に取り組んでいる。」で、肯定的回答が44%(目標51% 昨年42%)であり、昨年度と同程度であった。一方で、保護者アンケートでは72%が読書をよくしていると考えている。 〈全国学力・学習状況調査〉 生徒質問紙(24)「読書は好きですか」では、肯定的回答が70%(目標70%) (20)「学校の授業時間以外に、普段、1日どれくらいの時間、読書を読みますか」では、10分以上と回答する生徒の割合が44%(目標50%)であった。このことから、生徒にとって、読書にあてる時間が不足しているのではないかと考えられる。学校では引き続き読書に対する取り組みを継続し、生徒が読書の楽しみを実感できるよう支援する。	B	4. 読書活動の充実(a,b,c)	〈学校評価アンケート〉 ○生徒アンケートにおいて、「読書をよくしている。」で、肯定的回答が50%(昨年44%)を目指す。 〈全国学力・学習状況調査〉 ○生徒質問紙(24)「読書は好きですか」では、肯定的回答が75%、(20)「学校の授業時間以外に、普段、1日どれくらいの時間、読書を読みますか」では、10分以上と回答する生徒の割合が50%を目指す。	○1、2年生での朝読書を継続し、短時間でも毎日に触れる環境を維持する。 ○図書委員会による「おすすめ本の紹介」や図書ボランティアによる環境整備を通じて、生徒の興味を惹く図書館作りを進める。 ○「さんだ子ども読書の日(毎月23日)」を活用した啓発や、各教科での調べ学習と連動した読書指導を推進する。 ○各教科の学習において、学びを支える語彙の獲得の重要性や、読書の良さを実感する指導を進める。				